

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29191 金沢コケツアー ～こけ庭を見て、さわって、作ろう！～



開催日：平成29年11月11日(土)

実施機関：金沢工業大学(扇が丘キャンパスおよび中
(実施場所) 村記念美術館、金沢神社、兼六園)

実施代表者：円井基史

(所属・職名) (環境・建築学部・准教授)

受講生：小学5・6年生15名、中学生2名

関連URL:

【実施内容】

参加者17名(小学5・6年生15名、中学生2名)を対象に金沢コケツアー(コケ庭散策およびコケ箱庭作り)を行った。天候は曇り、実施中の外気温は13℃前後で、雨は降らずにすんだ。まず金沢工業大学扇が丘キャンパスにて、主に都市に生育するコケ植物について、基本的な生態、種類などに関する講義と、顕微鏡・ルーペを使った観察の実習を行った。次にバスで移動し、中村記念美術館、金沢神社、兼六園を徒歩で回り、コケの生態や景観を学んだ。その後大学に戻り、午後からは各自がキャンパス内でコケを採取し、自分で考えたデザインのコケの箱庭を作製した。

<プログラムの運営で工夫した点および安全配慮>

- ・座学説明において、小学生にも分かりやすい言葉を用いた。また図入りの配布資料を用意した。
- ・室内の演習において、水をかけると葉が開くのが分かりやすい乾燥したスナゴケと顕微鏡、および人数分のルーペと霧吹きを用意し、コケに水をかけると葉が広がり色も鮮やかになる様子を観察した。
- ・フィールド街歩きの時もルーペと霧吹きは各自が携帯し、いつでもコケへの給水や観察を行えるようにした。コケに触って手触りを確かめた。金沢の歴史や風土も感じてもらうための説明も加えた。
- ・座学・街歩き・箱庭作りを通して、ゆるやかに5班に分けた。街歩きでは、交通事故等がないよう、班単位で大学生スタッフが付き添いを行なった。また参加者が説明をしっかりと聞けるよう、また先頭と最後尾が離れることなどを考慮した。
- ・昼食は金沢工業大学の食堂で食べたが、参加者(小中学生)と主催側(教員および大学生スタッフ)が話をしやすいような座席配置や雰囲気づくりに配慮した。
- ・コケの箱庭を作り終わったら、作品に名前を付けてもらった。名付けることで、作品にストーリーが生まれ、全員の作品を並べて相互に閲覧・鑑賞を行なった。

<当日のスケジュール>

- 9:10 23号館1階パフォーミングスタジオにて挨拶、自己紹介、プログラム概要、科研費の説明
- 9:20 講義 コケ植物の概要 都市に生育するコケについて
- 9:35 顕微鏡・ルーペを用いてコケを観察
- 10:00 バス移動
- 10:20 中村記念美術館でコケ庭の観賞
- 11:00 金沢神社でコケの観察

11:20 兼六園でコケの観察

12:10 バス移動

12:40 金沢工業大学の食堂にて昼食・休憩

13:30 23号館1階パフォーミングスタジオにてコケの箱庭の作製方法の説明

13:45 キャンパス内でコケの採取

14:10 部屋に戻り箱庭を作製

14:50 完成した作品とネームプレートで写真撮影、作品を並べ閲覧・鑑賞

15:00 修了式(アンケート記入、未来博士号の授与)

15:20 解散

<実施の様子>



座学の様子



スナゴケに水をかける



中村記念美術館のコケ庭



ルーペでコケを観察



大学キャンパスでコケを採取



コケ箱庭作りの様子



完成したコケ箱庭



コケの道の先はパリの建物



日本庭園



四季



氷点下3度の世界



森の宝石



色とりどりの山

箱庭作品の一例

<事務局との協力体制、広報活動>

事務局との協力体制について、連絡を密に取り、円滑な運用ができた。

広報活動は、大学が作成したホームページ、地方広報誌での宣伝を行なった。

<今後の発展性、課題>

参加者のアンケートでは「とてもおもしろかった」11名、「おもしろかった」6名であった。意見・感想では、「コケにたくさん種類があると知ってびっくりした。今日は本当に楽しかった」「今回はとても楽しかった。だけど、ビーズや箱を大きくしてほしい」「もう少しコケ見る、とる時間を作ってもよいと思った」などのコメントがあった。一部の参加者はとても熱心にコケを観察していた。またコケの箱庭作りは、作品にそれぞれのストーリーがあり、興味深い取り組みだと感じる。その他、懸念事項としては、開催時期が11月だと、天候によっては寒く、雨天の場合、活動が制限されうるとのことである。

【実施分担者】 なし

【実施協力者】 10名

【事務担当者】 北村了、神田英信 研究支援部 研究推進課